

Piezosurgery® で低侵襲な抜歯を行い、インプラントの即時埋入を行った症例



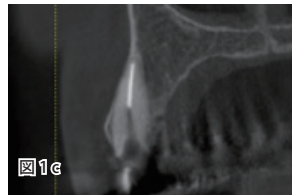
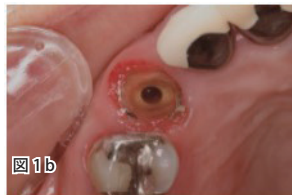
広島県 医療法人社団淳和会川添歯科クリニック 川添祐亮

抜歯後即時埋入を行う際、抜歯等の雑な手技により唇側の骨を失うと GBR が必要となり、手技が複雑化し、患者にも金銭的、肉体的な苦痛を与える。しかし、できるかぎり低侵襲に抜歯を行い、唇側の骨を温存することができれば、インプラント埋入手術を簡略化でき、患者に与える苦痛も少ないと筆者は考える。そこで今回 Piezosurgery® の専用チップ「EX1」を使用し、低侵襲に抜歯後

即時埋入を行った症例を報告させていただく。

症例：

患者は 71 歳女性。上顎右側 3 番の脱離で来院。骨縁下にまで及ぶ 2 次カリエスを認めたため保存不可能と判断。患者の希望によりインプラントをすることとなった。術前の CT 画像より根尖病巣はなく、骨の状態も良好であるため抜歯後即時埋入を計画した。(図 1 a-c)



Piezosurgery® 専用チップ EX1 を使用しての抜歯から、インプラントを埋入するまでの流れ。(図 2 a-h)



Figure 2a: Piezosurgery® 専用チップ EX1 を使用。

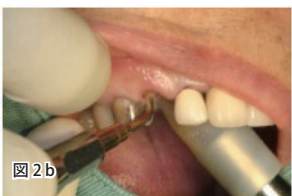


Figure 2b: EX1 を歯根膜腔に入れると容易に歯根膜を切断できる。

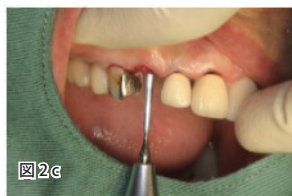


Figure 2c: 補助的にペリオトームを使用。



Figure 2d: 低侵襲に抜歯が行えた。

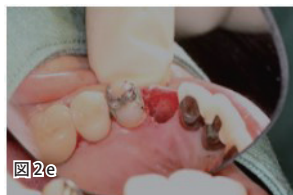


Figure 2e: 唇側の骨が温存されている。



Figure 2f: 通法に従い、インプラントを埋入。

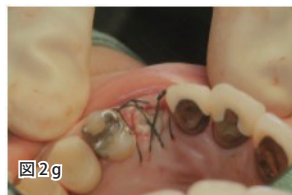


Figure 2g: ギャップに骨補填剤を填入後、CGF で覆い縫合した。

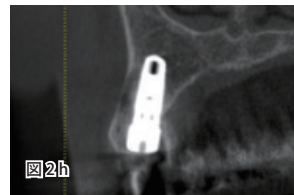


Figure 2h: 術後の CT 画像からも唇側の骨が温存されていることがわかる。

まとめ：

今回の症例はインプラントが絡んだケースであるが、Piezosurgery® はインプラント治療だけではなく、抜歯や歯周外科等の一般歯科における外科処置においても低侵襲で処置が行える大変便利な

ツールである。今後さらに Piezosurgery® を極め、患者に対し低侵襲な治療を心がけたいと筆者は考えている。

(参考)

Piezosurgery® の専用チップ「EX1」を使用し、他院で埋入されたオッセオインテグレーションしているインプラントを除去した症例。(図 3 a-f)

